

全国市町村水産業振興対策協議会 現地常任理事会 概要報告

日 時 令和7年8月4日（月）～5日（火）
会 場 北海道 神恵内村

1. 政策説明

「神恵内村の概要について」

北海道神恵内村 産業建設課長 板倉 宏至 氏

◆説明

【神恵内村の概要】

- ・神恵内村は、積丹半島の西側中央部に位置する。人口は、道内2番目に少ない723人である。
- ・明治時代からニシン漁によって栄え、大正元年に全道一の水揚げを記録する最盛期を迎える。
- ・ニシン漁の衰退と同時に人口流出が進行し、現在は人口減少・超高齢化社会に直面している。
- ・これまでも、これからも、「村民主体・村民本位」の地域づくりを展開していくことが重要。
- ・神恵内村の基幹産業は、水産業（養殖漁業）である。主品目は、ホタテ・キタムラサキウニ・ナマコ・カキである。漁獲高は例年、3億円程度で推移している。
- ・従来、主品目であったサケ・ホッケの生産高が減少傾向にある。サケは漁獲量に波がある。
- ・基幹産業である漁業においても、人材不足は深刻である。古宇郡漁協神恵内地区の組合員数は、35名（内訳：70歳以上→14名、50歳未満→7名）となっている。
- ・就業人口の多い第3次産業の現場においても、深刻な人材不足が発生している。近隣自治体も同様の状況にあるため、労働力流入を見込むことができず、労働者の確保が喫緊の課題である。
- ・財政状況は全国的な傾向と同様、交付金などに依存している状況にある。特筆すべき点として、泊原発が所在する泊村に隣接しているため、「電源三法交付金」を活用できる点が挙げられる。

【神恵内村の水産業・漁政の取組】

- ・地方創生交付金を活用して、①ウニの短期養殖による端境期（冬季）出荷、②ナマコの増養殖、③地域商社「キットブルー」設立（神恵内村・泊村・岩内町の共同出資）、④漁協女性部などによる特産品開発、⑤地域おこし協力隊の活用などの施策を展開している。
- ・令和7年より陸上養殖施設を設置し、「エゾバフンウニ」の養殖事業化試験を行っている。
- ・ナマコについては、漁業者とともに種苗生産・放流を行い、資源量の維持・増大に努めている。今年度は7月31日に、約550万個もの稚ナマコ（採卵から2週間養成）を放流した。
- ・近年は、中国など諸外国での需要拡大を背景に、暴力団によるナマコの密漁が増加しており、監視カメラの設置や、海保・警察・周辺自治体との密な連携を行い、警戒にあたっている。
- ・「積丹ブルー」として人気の海は、広範囲の磯焼けが生じている海洋環境の負の象徴でもある。そこで、神恵内村は海藻類の育成を推進し、「積丹ブラウン/グリーン」の創出を目指している。

◆意見交換

【川添 常任理事】

神恵内村の沿岸には、多くの海藻が付いているように見受けられた。鹿児島県や長島町でも、これほど海藻が付いている海はなかなかない。神恵内村の海は、再生に向かっていると思う。

【高橋 副会長】

神恵内村は予てより、高潮の被害を受けてきたため、消波ブロックを設置した。その副作用で、従来は磯であった場所に砂が入り込み、砂浜が出来上がってしまった。そこで海藻（1年昆布）が集まる藻場を再生させる取り組み「藻場LANDプロジェクト（平成22年～）」を行っている。

【浜上 監事】

- ①神恵内村の水産加工業について、事業所や従事者はどのような状況にあるのか。
- ②福島第一原発事故に係る中国の輸入禁止措置について、神恵内村はいかなる影響があったか。
- ③神恵内村のふるさと納税の状況について、教えていただきたい。

【高橋 副会長】

- ①水産加工業者は村内に1軒のみになってしまった。

もともと6軒ほどあったが、漁獲量減少と連動するように廃業してしまった。

- ③神恵内村は、ふるさと納税額が道内で下から2番目という状況にある。しかし、役場職員や漁協女性部、地域おこし協力隊などの努力もあり、魅力的な地域産品が誕生しつつある。

【板倉 産業建設課長】

- ②中国による輸入禁止措置の影響は、特になかった。ナマコは、日本の業者が下拵えを行って輸出し、中国の業者が乾燥や加工等の製品製造を行っていることが背景にあるものと考える。



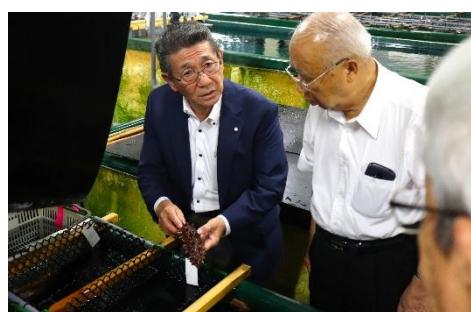
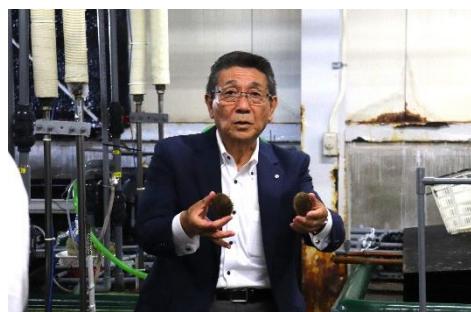
2. 報告

◆概要

事務局より、「令和8年度水産業振興と漁村地域活性化対策に関する要望」及び要請活動について報告を行った。

3. 現地視察

①神恵内村漁港「活魚畜養センター/ウニ陸上養殖施設」



②日本郷土玩具館「童心館」



(了)